

令和元年度  
社会福祉法人 高知小鳩会事業報告書

1 役員構成

1) 理事

理事長 南 守

理事 門谷 良久 南 幸子 岩城 雅人 井上 朋子 楠瀬敬兒郎

2) 監事 山崎 佳奈 神崎 正志

3) 評議委員 大倉 三洋 三谷 隆彦 矢野 泰彦 友永 義信 山本 純史  
福留 章夫 前田 正稔 太田 敏敬

2 令和元年度事業実績等

1) 高知県委託事業「障害児等療育支援事業」 \* 延べ人数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
外 来	2	4	2	4	1	3	2	1	0	2	2	0	23
巡 回	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	2	4	2	4	1	3	2	1	0	2	2	0	23

令和元年度 清算委託料 34,500円

2) その他支援事業 \* 延べ人数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
短期入所事業(指定事業)	7	10	14	11	6	8	45	38	33	34	29	31	266
在宅支援事業(法人単独) * 宿泊, 日中ショート等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1

3 令和元年度決算 ※ 収支決算書参照

# 令和元年度 あじさい園事業報告書

## 1 事業概要

(総括)

### 1) 職員体制と人材確保

本年度は生活支援員1名を採用し男性16名、女性14名、看護師1名でスタートする。1.7対1の加算を上回る人員体制ではあったが、支援の質を高め維持する人数として充足には至っていない。又、年度中に3名の女性職員が産休に入り、来年度に向けての人員確保が喫緊の課題となった。

人材確保に関しては重点課題でもあった「職員の安定的確保」に向けて、ホームページのリニューアルに着手し有限会社BASARAと契約。コーポレートサイトに加え、魅力ある職場として発信できるよう、アニメーションや職員紹介を取り入れたリクルートサイトを増設し、スマートフォンにも対応できるようリニューアルした。

### 2) 支援技術の向上

医療的ケア（喀痰吸引）が必要な利用者が1名増え、生活支援において介護技術スキルを高めていくことが求められた。今年度から3つの委員会（ユマニチュード、KT（食事）、リハビリ）を立ち上げ、担当者を決めて知識、技術の習得を含め課題解決の為の取り組みを行った。

ターミナルケアを視野に入れた支援を行う上でも、残存機能の維持と最期まで寄り添うことをケアの目標とする中で「支援員として何をすべきなのか」を問う機会として職員教育にも一定の成果を得た。

### 3) 施設整備

ゲストルーム全体の壁紙、襖の張替え、畳替え、喫煙ルームの設置（一部補助金）、本館男性棟和室を洋室に改装、厨房休憩室及びトイレ改修、その他数箇所の修繕を行った。

### 4) 新型コロナウイルス感染防止対策

新型コロナウイルス感染拡大の兆しが見え始めた2月中旬より、随時、家族への防止対策の周知と理解を促す通知を送付。2月29日に高知県で初の感染者が確認された時点で、3月2日より第二あじさい園を含めた通所利用者の日中活動の場を「こぼと作業所」に変更し、原則、入所利用者の帰宅、面会、短期入所の受け入れ、外来者の管内立ち入り等を禁止しウイルスを持ち込むリスクの軽減を図った。

## 2 法人サービス理念

### 1) 「できるだけ普通に、可能な限り特別に」をサービスの基本とします。

施設を地域の一単位（家庭）と考え、一般社会と比較されるような特別な生活環境ではない、いわゆる「普通」感覚をもちながら、個別のニーズには可能な限り「特別」で手厚いサービス提供をすることを目指した。

### 2) 利用者心地よい援助技術の習得に努め、心は常にアマチュアであろうとします。

職員は介護等の自主研修等とおして介助、支援技術の習得に努めた。又、専門性を高めると共に、アマチュアであった時のような本来の「福祉の精神」が失われることのないよう職員教育を行った。

## 3 基本的運営理念

### 1) 家庭の代替機能、補完機能を第一義としない。

保護者と施設がそれぞれの役割を果たせるような関係づくりをし、利用者が家庭から

遊離しないような取り組みを継続して行った。

2) 幅広い福祉システム作りの核としての機能と目的を持つ。

施設の所有するサービスの有効活用を目指し、短期入所、相談支援事業と連携し在宅知的障害者の支援にも努めた。

3) 託し合える関係を保持する保護者たちが、施設と両輪となり「親の視点」で運営する。

利用者が何を望んでいるのかを把握するために、「親の視点」をとおして保護者と施設が連携を保ちながらの利用者サービスに努めた。

#### 4 運営方針

1) ノーマライゼーションの原則

障害を疾病や発達障害としてではなく、個々の特徴として位置づけ、日常生活の上で支障となる面は職員が支援を行い、個々の障害の特徴や支援度で分けることなく可能な限り全体の中で生活ができるように努めた。

2) 個別支援の原則

必要外の集団支援は行わず、個々の特徴やニーズに応じた個別計画を作成し支援を行った。

3) 家族・地域・施設連帯の原則

可能な限り週帰宅を実施し、家族から遊離することがないように努め、月の第3日曜（8月は除く）に保護者会を開催し家族と施設の連携を深めた。施設も地域の一家庭という考え方のもと、自然な形で地域住民との交流ができるよう配慮した。

4) 利用者職員は、指導「する・される」の関係からより良い生活の受益と提供の原則

どうすればより良い生活が提供できるかが法人及び職員全員の目標であり、職員会議等で主たるテーマとしその実践に努めた。

#### 5 利用実績

1) 生活介護（定員52名；{契約者数56名：男33名、女23名}）

平均障害支援区分5.8 開所時間：入所AM8:00～PM16:00 通所AM9:00～PM16:00

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
利用実績	947	997	939	971	956	911	956	916	983	981	865	986	11,408
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
平均利用者数	31.6	32.2	31.3	31.4	30.9	30.4	30.9	30.6	31.8	31.7	29.9	31.9	31.2

2) 施設入所支援（定員52名；{契約者数47名：男27名、女20名}）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
利用実績	1395	1450	1378	1435	1396	1322	1407	1355	1336	1348	1312	1426	16,560
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
平均利用者数	46.5	46.8	46.0	46.3	45.1	44.1	45.4	45.2	43.1	43.5	45.3	46.0	45.3

## 6 令和元年度重点課題

### 1) 職員（人材）の安定的確保と定着

- ・法人、私たちの職場、仕事の魅力を発信することを目的に有限会社BASARAと契約。内容の検討を重ね、11月1日に新しいホームページが完成した。
- ・7月14日（日）高知ぢばさんセンターにて開催されたフェアに参加し、新規職員採用につながるよう努力した。
- ・高知福祉専門学校（男3名、女1名）高知学園短期大学（男1名、女1名）龍馬看護ふくし専門学校（女2名）合計8名を受入れた。

### 2) 職員の資質の向上

- ・生活支援における基礎知識に加え、ユマニチュードの技法を取り入れた実践をセットとした施設内定例研修を行なった。外部が主催するものについては、高知県知的障害者福祉協会の研修に参加した。
- ・国家資格として、介護福祉士の資格を男性1名が取得した。

### 3) 重度高齢化対策としての支援技術の向上と環境整備

- ・年度末時点で、全職員の7割が喀痰吸引（第3号研修）の資格を取得者となった。
- ・今年度よりKT委員会を発足し、主に嚥下障害のある利用者について評価、検討を行ない支援の向上に繋げた。

### 4) 災害対策の強化

- ・震災時の支援体制の確立と支援技能の向上を目指した防災訓練を実施すると共に、福祉協会主催の防災研修会にも積極的に参加した。
- ・南海トラフ巨大地震臨時情報発令時の対応に関して、保護者会も含めて検討を行なった。

### 5) 法人内事業所の連携強化

- ・販売活動をとおして、法人内事業所の連携強化を図った。
- ・日中活動のあり方に関して検討を行ない、余暇活動の共催を実施した。

## 7 運営資金

収支計算書等参照

## 8 苦情解決

本年度苦情受付件数 0件

## 9 令和元年度職員研修

4月	・支援技術の向上① 「排泄支援の基礎知識」	10月	・支援技術の向上③ 「食事支援の基礎知識」
5月	・支援技術の向上① 「排泄支援におけるユマニチュード」	12月	・支援技術の向上③ 「食事支援におけるユマニチュード」
6月	・支援技術の向上② 「入浴支援の基礎知識」	1月	・支援技術の向上④ 「口腔ケアの基礎知識」
8月	・支援技術の向上② 「入浴支援におけるユマニチュード」	2月	・支援技術の向上④ 「口腔ケアにおけるユマニチュード」
9月	・あじさい園の防災について		

その他

- ・毎月各職員1回程度、心肺蘇生法と誤嚥時の対応方法の習得と防災時の対応訓練を行なった。
- ・4月～11月にかけてユマニチュード入門研修に参加し、ユマニチュードの技法を学び、法人職員としての支援技術の向上となるよう努めた。

### 10 職員構成（職種・氏名）

注）常勤職員（育休4名、相談支援員含む）、△非常勤

（令和2年3月31日現在）

職名	管理者	サビ管兼施設長	法人事務長	総務部長	総務課長	管理栄養士	相談支援員	支援職員					厨房職員	顧問医	合計	
								支援課長	支援係長	生活支援員	看護課長	看護師				支援職員合計
男	1		1		1		3	1	2	13			16	1	△1	23 △1
女		1		1		1		1	2	11	1	1	15	2 △7		20 △7
計	1	1	1	1	1	1	3	2	4	24	1	1	31	3 △7	△1	43 △8

### 11 生活支援

#### 1) 給食

食事内容

平均カロリー（/日）	1,756kcal
平均品数（/日）	朝/6.3品 昼/4.5品 夕/4.6品
食事時間	日課参照

給食費用

実延人数	入所 16,507人	通所 1,665人
材料費	14,020,294円	

\*利用者負担は材料費650円、業務委託費930円。超過分はあじさい園が負担しより質の高い食事を提供した。

衛生管理

検査・点検	結果	費用
検便	異常なし	90,078円
貯水槽清掃	良好	91,800円
厨房内清掃	良好*害虫駆除 大進	64,800円
浄化槽清掃	良好	424,450円

器具什器費

食器、調理器具	203,774円
---------	----------

## 2) 健康管理

顧問医、医療機関との連携を図り、利用者の健康状況の把握と疾病の早期発見に努めた。  
又、必要に応じて感染対策委員会を開催し、予防対策の検討を行なった。

歯科健診	6/11	広田歯科医院（園内）
歯科受診	毎週火	広田歯科医院
口腔ケア	隔月	広田歯科医院（園内）
内科健診	7/19	横浜ニュータウン内科（園内）
一斉健康診断	10/24	きんろう病院（園内）
検診フォロー	随時	横浜ニュータウン内科
藤戸受診	定期	藤戸病院（園管理者対象）
訪問診療	月2回	あおぞら診療所（契約利用者対象）
インフルエンザ予防接種	11/7	横浜ニュータウン内科（園内）

## 3) 環境整備

園庭、裏山の整備、清掃、産業廃棄物の管理と処理、整理整頓を心がけ、環境美化に努めた。

## 4) 防災計画

* 総合消防訓練		: 6/13・11/5（高知市南消防署）
担当	園長：総指揮 / 事務員：連絡 / 生活支援員：救助 / その他職員：報告	
* 南海大地震対策訓練		: 8/8、12/3（全職員）
* 南海大地震対策委員会		: 随時、幹部会にて報告

## 1.2 日中活動支援

### \* 「いきがい班」

曜日毎で活動を固定し、利用者に当日の活動が分かりやすいよう配慮した。また、楽しみの幅を広げる為お楽しみ企画等を取り入れ、職員の個性を活かした活動の提供を行なった。

#### 1) 映画

利用者に観たい映画を尋ね、上映会を行なった。映画館の雰囲気味わってもらえるように、食堂でプロジェクターを使用し大画面で鑑賞できるよう工夫した。観たい映画が複数ある時は各棟に分かれて行った。又、時々ではあるが鑑賞しながらおやつやジュースの提供も行なった。

#### 2) 創作

季節に合った作品を創作し掲示板を装飾することで、達成感を味わえるようにした。また、行事に必要な準備物の作成を行なうことで、行事に対する期待感が持てるよう配慮した。塗り絵や折り紙等、利用者の得意分野を活かし、楽しめる活動の提供を行なった。

#### 3) ドライブ

折り返しのコースや一周コース等複数のコースを作り、担当の職員がアレンジを加えて企画を作り、楽しめるよう工夫した。メンバーや人数によって公用車を使い分け、職員配置をしっかりと行い、安全にドライブできるよう配慮した。音楽やラジオをかけたり、職員が意識的に場所や景色を伝える等、楽しめるよう配慮した。

運転する職員は安全運転を心掛け、事故なくドライブを行うことができた。

#### 4) リラックス

アロマを焚きハンドクリームでハンドマッサージを行い、ゆったりとした時間を皆で共有した。寒い季節は、入浴剤を使用し足湯を行い、心地良い時間となるよう心掛けた。

#### 5) カフェ

くじ引きや紙芝居など楽しい企画を行なうと共に、お菓子やジュースなどの提供を行なった。嚙下力低下など特別な配慮が必要な利用者には、プリンやヨーグルトなど食べやすい物を提供した。

#### 6) 散歩

身体機能、体力の維持が出来るよう定期的に散歩を行ない、体を動かす機会を設けた。散歩時は利用者との会話を楽しむと共に、危険がないよう安全面の配慮を行なった。また、春野運動公園のカントリーコースを歩き、いつもと違う雰囲気散歩を楽しめるよう配慮した。

#### 7) わくわくクラブ

今年度より、第二いきいきグループと合同で活動に取り組んだ。午前は運動支援を中心にいきいき、散歩やグラウンドでの運動、雨天時は室内での体操は同じ内容にならないように工夫した。午後からは、月曜園芸、火曜布ボール作り、水曜創作、木曜散歩やジュースの買物、DVD鑑賞、金曜カラオケ、園芸等を行った。

育てた野菜は両親市で販売したり創作で作成した作品を障害者作品展やスピリットアート展に出品した。

#### \* 「生産活動班」

生産活動を希望する入所利用者については、第二あじさい園の生活介護を利用してミニトマト、ブルーベリー栽培、木工等の班に所属して日中活動を行った。

(第二あじさい園事業報告参照)

### 1.3 行事・その他の活動について

#### 1) 季節行事

行事の内容によっては積極的に保護者や地域住民（納涼祭、クリスマス会等）の方々への参加を促し、利用者と共に季節折々の行事を楽しんだ。

行 事	日	備 考
5月行事 端午の節句	5/2 (水)	第二合同
7月行事 七夕	7/5 (金)	第二合同
納涼祭	8/16 (金)	第二・こぼと作業所・他関係者 約200名
9月行事 月見	9/6 (金)	第二合同
スポーツフェスティバル	10/18 (金)	第二・こぼと作業所 約120名
クリスマス会	12/25 (水)	インフルエンザ流行のため中止
冬期帰宅	12/26 (木)	～H30/1/4 (木)
新年会	1/10 (金)	第二合同
節分&餅つき	2/6 (水)	体調不良者多数のため中止
3月行事 ひな祭り	3/6 (金)	第二合同

#### 2) 誕生会

利用者個々の誕生日を予定表で知らせると共に、食事時間や夜の余暇時間にケーキやプレゼント等を準備して「特別な日」として個々に祝う誕生会を行った。

### 3) 外出

個々の利用者が楽しめる外出先を設定し、一日外出を実施した。

日	外出先
4/22 (月)	白バイ隊見学、交通公園 (一日外出)
5/23 (木)	雲の上図書館、太郎川公園 (一日外出)
11/20 (水)	創造広場アクトランド (一日外出)

### 4) 余暇活動

季節探しバスドライブやクッキング(ポップコーン、どら焼き作り等)、カラオケを企画した。

ハロウィンやバレンタイン等、季節に因んだ余暇を企画し提供を行なった。毎月手書きのイラストポスターを作り、余暇内容を楽しんで頂けるように掲示を行なった。

### 5) 園芸活動

別館裏や出窓下に植えてある、あじさいの剪定を行なった。夏に向け春ごろから食堂南側と居室の出窓下にゴーヤの苗を植え、グリーンカーテンを作り涼しい環境が出来るように努めた。ハウス横の畑ではポップコーンを育て、収穫した物をクッキングで調理し食べ、作物を育て楽しめるように配慮した。

### 6) スポーツ活動

福祉協会のスポーツ委員会が主催する活動を中心に、担当者が中部地区施設交流会・ソフトボール・ソフトバレー交流大会・軽スポーツ交流大会・ゆうあい四国大会等に関わることで他施設との交流を深め、利用者が楽しめる大会を選択し参加した。

#### ① 第21回障害者スポーツ大会

6月2日(ボウリング8名、卓球1名、陸上1名)

9月29日(フライングディスク10名)

#### ② ゆうあいスポーツ四国大会

11月12日(陸上1名、フライングディスク23名)

\*参加者は第二含む

## 1.4 広報

### 1) あじさい新聞

あじさい園、第二あじさい園、こぼと作業所の行事や活動の様子、また施設の改修や工事をした報告等写真を取り入れて紹介し、利用者、保護者、職員が日々の出来事や情報を共有できるように、毎月なあじさい会で配布した。(約70部)

### 2) ホームページ

11月にリニューアル終了。当法人についての概要、施設紹介、活動内容等を掲載し、職員の個性を活かしたブログで、利用者の日々の様子や園内の情報などを公開した。また、毎日の食事メニュー写真付きで掲載し保護者からも好評を得た。

## 1.5 その他

### 1) 新型コロナウイルス感染防止対策

#### 1、事業概要(総括参照)



## 令和元年度 あじさい園障害児者相談支援事業所 事業報告書

### 1 事業の運営

主に、高知市在住の知的障害(児)者が居宅及び事業所等において必要且つ適切なサービスが受けられるよう、可能な限り親身で手厚い支援をすることを目標とした。また、新型コロナウイルスへの対応については、蔓延防止の観点から居宅等訪問や担当者会議についてはすべて電話にて対応した。

本年度は職員数が昨年度より1名減の体制となったため、ひと月当たりの計画作成は約10件(表1)で、高知市の委託事業(表2)と合わせて昨年度比3割減の実績となった。但し、相談員1人当たりの作成率は3割増しとなり、業務量の適正化は次年度への課題となった。

### 2 職員構成

職員数 2名

職員構成 管理者 1名(兼任) / 相談支援専門員 1名

### 3 事業内容及び事業実績

#### 1) 障害福祉サービス等の利用計画の作成

・計画相談支援(者)

「サービス利用支援」及び「継続サービス利用支援」

・障害児相談支援(児)

「障害児支援利用援助」及び「継続障害児支援利用援助」

表1 \* ( ) は継続支援

月 児者	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
障害児	3 (0)	0 (1)	4 (1)	2 (1)	3 (3)	3 (0)	6 (0)	3 (0)	2 (0)	6 (0)	5 (0)	5 (0)	42 (6)
障害者	11 (1)	12 (1)	10 (0)	8 (1)	4 (2)	6 (1)	5 (2)	4 (0)	7 (1)	6 (0)	4 (1)	3 (1)	80 (11)
計	14 (1)	12 (2)	14 (1)	10 (2)	7 (5)	9 (1)	11 (2)	7 (0)	9 (1)	12 (0)	9 (1)	8 (1)	122 (17)
総実績												139件	

#### 2) 障害福祉サービスの支給決定に係る調査業務(高知市委託事業)

表2

月 児者	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
障害児	4	0	4	2	3	3	6	3	2	6	5	4	42
障害者	10	12	13	6	4	6	5	4	7	6	4	4	81
計	14	12	17	8	7	9	11	7	9	12	9	8	123件

### 4 運営資金

令和元年度収支決算書参照

## 令和元年度 生活介護事業所第二あじさい園事業報告

### 1 事業概要

生活介護事業を実施し、法人サービス理念、基本的運営理念、運営方針を基盤とした事業計画及び、利用者個々の特性やニーズに応じた個別支援計画を作成し、計画的且つ一貫した支援ができるように努めた。又、高齢化が進んできた利用者さんのニーズに対応できるよう、余暇、創作活動に重点を置いたグループを新設しあじさい園と共催で取組んだ。

営業日は原則月曜日から金曜日。営業時間は9:30～16:00(送迎時間を除く)として運営した。

### 2 法人サービス理念

- 1) 「できるだけ普通に、可能な限り特別に」をサービスの基本とします。

施設を地域の一単位と考え、一般社会と比較されるような特別な生活環境ではない、いわゆる「普通」感覚をもちながら、個別のニーズには可能な限り「特別」で手厚いサービス提供をすることを目指した。

- 2) 利用者心地よい介助技術の習得に努め、心は常にアマチュアであろうとします。

職員は介護等の自主研修等をとおして介助、支援技術の習得に努めた。又、専門性を高めることによって、アマチュアであった時のような本来の福祉の精神が失われることのないよう職員教育を行った。

### 3 基本的運営理念

- 1) 家庭の代替機能、補完機能を第一義としない。

保護者と施設がそれぞれの役割を果たせるような関係づくりをし、利用者が家庭から遊離しないような取り組みを継続して行なった。

- 2) 幅広い福祉システム作りの核としての機能と目的を持つ。

法人の実施するサービスの有効活用を目指し、短期入所、相談支援事業と連携し、施設利用者支援に努めた。

- 3) 話し合える関係を保持する保護者たちが、施設と両輪となり「親の視点」で運営する。

利用者が何を望んでいるのかを把握するために、「親の視点」をとおして保護者と施設が連携を保ちながらの利用者サービスに努めた。

### 4 運営方針

- 1) ノーマライゼーションの原則

障害を疾病や発達障害としてではなく、個々の特徴として位置づけ、日常生活のうえで必要となる面は職員が支援を行なった。また、可能な限り個々の障害の質や程度で区分する事も行なわず全体の中で生活ができるように努めた。

- 2) 個別支援の原則

必要以外の集団サービスは行なわず、個々の特徴やニーズに応じた個別計画を作成し支援にあたった。

3) 家族・地域・施設連帯の原則

第3日曜日（8月は除く）に保護者会をもち保護者と施設の連携を深めた。また、夕涼み会・クリスマス会・生産物の販売などを通じての地域交流を図った。

4) 利用者と職員は、指導「する・される」の関係から、作業環境を含んだより良い生活の受益と提供の原則

利用者はより良い環境を受益する権利があり、職員はより良い環境を提供する義務を持つという認識に立って活動をする事ができた。

5 令和元年度重点課題

1) 豊かな生活の創造

- ・ユマニチュードの技法を基本として、重度高齢化の進む利用者さんに対する支援力の向上に努めた。
- ・個々のニーズをくみ取り、余暇的活動内容の充実に努めた。

2) 職員（人材）の安定的確保

- ・ホームページ等 SNS を活用し、法人の情報発信を行った。

3) 職員の資質向上

- ・生活支援における基礎知識に加え、ユマニチュードの技法を取り入れた実践をセットとした施設内定例研修を行った。外部が主催するものについては、高知県知的障害者福祉協会の研修に参加した。

4) 災害対策の強化

- ・震災時の支援体制の確立と支援技能の向上を目指した防災訓練を実施すると共に、福祉協会主催の防災研修会にも積極的に参加した。
- ・南海トラフ巨大地震臨時情報発令時の対応に関して、保護者会も含めて検討を行った。

5) 法人内事業所の連携強化

- ・販売活動を通して、法人内事業所の連携強化を図った。
- ・日中活動のあり方に関して検討をおこない、余暇的活動の共催を実施した。

6 令和元年度職員研修

4月	支援技術の向上① 「排泄支援の基礎知識」	10月	支援技術の向上③ 「食事支援の基礎知識」
5月	支援技術の向上① 「排泄支援におけるユマニチュード」	11月	
6月	支援技術の向上② 「入浴支援の基礎知識」	12月	支援技術の向上③ 「食事支援におけるユマニチュード」
7月		1月	支援技術の向上④ 「口腔ケアの基礎知識」
8月	支援技術の向上② 「入浴支援におけるユマニチュード」	2月	支援技術の向上④ 「口腔ケアにおけるユマニチュード」
9月	あじさい園の防災について	3月	

その他

・毎月各職員1回程度、心肺蘇生法と誤嚥時の対応方法の習得と防災時の対応訓練を行った。

※外部研修は令和元年度外部研修参会一覧参照

## 7 具体的運営

### 1) 生活支援

利用者個々の生活様式に応じた生活援助を目的とし、どうすれば最も快適な生活ができるかを常に模索し、利用者の自己実現を図れるよう支援した。

#### (1) 給食

食事内容		給食費用		
平均カロリー	651Cal	実延人数	4,069人	(342円/1食あたり)
平均食数	4.5品	食材費	1,391,394円	

#### 衛生管理費

検査・点検	結果	費用
検便	異常なし	9,020円
厨房内清掃	良好*害虫駆除 大進	
浄化槽掃除	良好	127,225円

#### 器具什器費

食器	33,030円
----	---------

### 2) 健康管理

利用者の健康状況の把握と疾病の早期発見に努め、感染予防については過去の教訓を生かしながら対策に取り組んだ。又、嘱託医、医療機関との連携を常に保った。

歯科 検診	6/11	広田歯科(園内)
歯科 受診	毎週火	広田歯科
口腔 ケア	隔月	広田歯科(園内)
内科 検診	7/19	横浜ニュータウン内科(園内)
一斉健康診断	10/24	きんろう病院(園内)
検診フォロー	随時	横浜ニュータウン内科
藤戸病院受診	定期	藤戸病院
インフルエンザ予防接種	11/7	横浜ニュータウン内科(園内)

### 3) 環境整備

施設内の美化と利用者身辺の整理整頓に努めた。

#### 4) 防災計画

*総合消防訓練：6/13・11/5（高知市南消防局	
担当	園長：総指揮 / 事務員：連絡 / 支援員：救助 / その他職員：報告
*南海地震対策訓練：8/8・12/3（全職員）	
*南海地震対策委員会：毎月幹部会にて報告	

- ・総合消防訓練では火災を想定した避難訓練と消火器、散水栓の使用手順を学んだ。火災発生時の避難先を秋山公民館前に変更した。
- ・園内で行なう訓練では地震を想定し、炊き出し、避難誘導、避難場所の確認、使用物品の使用方法を学んだ。同じ訓練を繰り返し行うことで意識、技術の向上につなげた。
- ・外部研修として高知県知的障害者福祉協会の防災委員会主催の研修に参加。他施設、他業種との意見交換を通し防災知識を深めた。

#### 8 日課

時 間	活 動 内 容
8：30	送迎車出発
8：30	始 業
9：45	作業開始
10：50	休 憩
11：45	昼食開始
13：00	作業再開
14：15	休 憩
14：30	作業再開
15：15	作業終了・掃除・フライングディスク練習（希望者）
16：00	送迎車出発
17：30	終業

9 職員構成

(令和2年3月31日現在)

職名 人数	管理者	施設長 (サービス管理責任者)	事務員 (兼務)	調理員	直接処遇職員					顧問医	合計
					支援課長	支援係長	支援員	看護師 (兼務)	支援員合計		
男	1	1			1	1	2(1)		4(1)	1(1)	7(2)
女			1	2(1)			2	1	3		6(1)
計	1	1	1	2(1)	1	1	4(1)	1	7(1)	1(1)	1(3)

注 ( ) は臨時職員再掲

10 運営資金

運営資金は、給付費でまかなった。

(収支計算書等を参照)

11 施設利用状況の推移(定員 20 名:基準開所日数 269 日,利用人数 5,380 名)

項目	延数	%	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
契約者数	216	90	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
利用者数	3,974	74	367	357	341	379	343	330	363	339	269	307	299	284
開所日数	244	91	21	21	21	22	21	20	21	20	19	19	18	21

※小数点第1位四捨五入

年齢：男性-51.0歳(11名) 女性-42.0歳(7名)

総計平均年齢：47.2歳(18名)(3月31日現在) ※小数点第2位四捨五入

平均支援区分：4.9 基準人員配置人数：3.2人

12 会議

職員会・ケース会・個別支援会議・サービス担当者会議・作業内容検討会を適時実施した。

13 活動・行事について

社会自立に目標をおく作業とともに、個々人に適した自立や生き甲斐に主眼を置いた活動も提供した。行事、余暇活動については、スポーツ大会参加や直販への参加活動なども取入れた。

I 作業別

1) トマト作業

担当：時田

○トマト作業参加者

・利用者：13名、職員：5名

○トマトハウス

定植：令和元年8月15日（ももたろうファイト、フラガール、ドルチェ）

苗：全本数1056本。11列植え（1列80～96本、1ロックウール6穴）

液肥：0.6以下で開始。その後成長が進んでからはEC1.2～1.8を目安で設定。

消毒回数（平成31年4月～令和元年3月31日現在）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
殺虫	1回	0回	0回	0回	1回	1回	3回	0回	0回	0回	0回	0回	6回
殺菌	1回	1回	0回	0回	0回	2回	0回	1回	3回	2回	2回	1回	13回
殺虫	1回	1回	0回	0回	0回	2回	0回	0回	0回	0回	1回	1回	6回
リット	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回	1回	1回	2回

使用農薬

- ・殺菌剤：カリグリーン、トップジンM、ランマン、ホライズンフロアブル、ファンタジスタ水和剤、アフェットフロアブル、ベルクード水和剤
- ・殺虫剤：クララ、マット乳化剤、アフアーム
- ・殺虫殺菌剤：サンクリスタル乳剤

重油回数：4回 夜温設定（11℃）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回	1回	1回	1回	1回

○どんこハウス

定植：令和元年8月15日（ネネ）

苗：全本数1728本。17列植え。1ロックウール6穴

液肥：最初は、0.6以下 成長が進んでからはEC1.2～1.8

を目安で設定。

消毒回数（平成31年4月～令和元年3月31日現在）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
殺虫	0回	0回	0回	0回	0回	1回	2回	0回	0回	0回	0回	0回	3回
殺菌	2回	0回	0回	0回	2回	2回	0回	1回	3回	2回	3回	3回	18回
殺虫菌	1回	0回	0回	0回	0回	2回	0回	0回	0回	0回	1回	0回	4回
メリット	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回	3回	1回	4回

使用農薬

- ・殺菌剤：カリグリーン、トップジンM、ランマン、ホライズンフロアブル、ファンタジスタ水和剤、アフェットフロアブル、ベルクード水和剤ロブラール水和剤
- ・殺虫剤：クララ、マット乳化剤、アフアーム

・殺虫殺菌剤：サンクリスタル乳剤薬

重油回数：4回、夜温設定（11℃）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回	1回	1回	1回	1回

○トマトハウス総収穫量（平成31年3月31日現在）

4月	5月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
141.3k	23.6k	90.2k	315.9k	317.3k	378.7k	182.9k	1449.9k

○トマトハウス割れ、傷

4月	5月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
38k	2k	29.8k	98.7k	154k	96.1k	40.2k	458.8k

○どんこハウス総収穫量（平成31年3月31日現在）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
755.3k	763k	0	0	0	0	311.9k	442.5k	366.4k	420.1k	277.9k
3月	合計									
343.8k	3680.9k									

○どんこハウス割れ、傷

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
103k	120.4k	0	0	0	0	117.1k	199.6k	122.4k	97.1k	15.2k
3月	合計									
43.5k	818.3k									

○令和元年度収穫量（3月31日現在）

・ハウス別

トマトハウス：1449.9 k g（内売り物：991.1 k g）

どんこハウス：3680.9 k g（内売り物：2862.6 k g）

・品種別

ネネ：3165.7 k g（内売り物 2435.8 k g）

フラガール：892.6 k g（内売り物 604.6 k g）

ももたろう：536.4 k g（内売り物 371.0 k g）

海たろう：268.4 k g（内売り物 216.9 k g）

ドルチェ：267.7 k g（内売り物 225.4 k g）

5種類合計：51,308 k g

・過去の同時期の収穫量（参考資料）

25年度収穫量 3946.8kg（平成25年8月～平成26年3月）

26年度収穫量 3655.2kg（平成26年8月～平成27年3月）



27年度収穫量 5382.4kg (平成27年8月～平成28年3月)

28年度収穫量 4863.3kg (平成28年8月～平成29年3月)

29年度収穫量 5242.6kg (平成28年8月～平成29年3月)

30年度収穫量 5533.7kg (平成28年8月～平成29年3月)

#### ○まとめ

##### ・設備

6月にどんこハウスの全面張替えを行った。

ボイラーのメンテナンスについては今年も3回おこない、大きなトラブルも無く順調に稼動した。その他の設備では、トマトハウスのサーキュレーター一台、液肥機械の電磁弁1台を買い換えた。

##### ・栽培（育成）

トマトハウスでは、ももたろうファイト（大玉）6列、ドルチェ（中玉）2列、フラガール（ミニ）3列の3種類を8/15に定植し、その内の5列（1.2.3列はももたろう 4.5列はドルチェ）に海水を含んだ液肥で栽培をした。また、どんこハウスはネネのみ17列を8/15に定植した。

育成の状況については、8月の高温時に定植を行い、射光ネットの使用と、サイドの開閉をおこない、風通しを良くすることで盛夏時期も枯れることはなかった。その後、トマトが実り始める辺りから肥料を葉面散布することを定期的に行い順調に栽培できた。また、定植後に肥料過多とホウ素不足からなる苗止まりが発生することを考え、ECを0.6と低めに設定し定期的にホウ素を散布した。その結果、成長にバラつく事もなく、ある意程度平均的に成長した。

カビの発生を予防するため週一回は殺菌剤の農薬を散布していましたが、12月頃からトマトハウスで栽培している桃太郎の茎にカビが発生し、茶色く枯れる苗が何本も見られた。灰色ススカビ病との診断を受け、発生原因である切り口からのカビが浸入と、残った枝が枯れてカビが発生することへの対応として、葉切りの際は根元からしっかり切る対応を徹底すると共に、こまめに塩素でのハサミ消毒も行った。農薬の使用については、同じ種類を連続して行うよりも、何種類かを順番に行っていく方が良いとアドバイスをもらい実施した。その後、徐々に苗の状態が改善していき、1月中旬頃にはほぼ対策が完了した。また、どんこハウスの方も同じ時期にカビが見られ、トマトハウスと同じ様に農薬を散布することで改善が見られました。

果実の状態については、ネネは連年どおり初期から2ヶ月程は裂果が多くあったが、徐々に減っていった。他に実の大きさにバラつきが観られ小さい物が多くあった為、肥料の葉面散布や液肥の濃度を濃くする（最大EC1.8）ことで、現在はある程度実が揃ってきた。フラガールは裂果が多く、初期から2ヶ月は実のほとんどが割れる状態だったが、ネネと同じく液肥の濃度を濃くすることで割れる量を減少させる事ができた。ももたろうは、割れる量は例年と変りなかったが、トマトトーンを散布することを忘れてしまったことが原因で受粉が出来ず、3月がほぼ収穫できなかった。また、海水を使用したももたろうは、例年なら1月頃から糖度が上がって来るはずが、今年は2月頃から上がり始めた為、少ない収穫となった。海水を使用したドルチェも同じ状況であった。原因としては、冬場の気温が高かったことが原因ではないかと推測される。

## ・作業状況

暑い時期は、休息と水分補給を適時行うことで、熱中症等の対策を行った。

作業開始時（午前午後ともに）に毎回「お仕事である」事を伝えると共に、毎回一人ひとりの半日分の作業内容を伝えるよう努めたことにて、以前よりも作業への取り掛かりがスムーズになった。また仕事であるという自覚を持たかば明確ではないが、以前のような拒否をして動かなくなることも少なくなったと感じる。

休憩時間帯に廃棄トマトを取り、職員の居ない場所で食べている利用者さんが観られた為、所在の把握に努めた。

コロナウイルス感染予防対策の為、3月より通所利用者がこぼと作業所へ通所する事となり、トマト作業に関わる人数は、利用者9名と職員3名体制（通常：利用者14名、職員4名）となっている。そのため作業進行に対し不安に感じたが、実際に取組んでみると、収穫が多い時期ではかった事や、通常は送迎対応をしていた時間に職員が残り苗の世話ができた事で大幅に遅れることはなかった。また、利用者さん自身も「少ない人数であるから頑張らないといけない」と、自らを鼓舞して作業を行ってくれているように感じた。

今期のトマト終了まではまだ感染予防対策が続くと思われるため、人数が少ない中でも作業が遅れない様に職員同士の連携と利用者さんの意欲を下げない様に努めていく。

## ○展開

来年度は、今年習った農薬と消毒の方法での対策にて、湿度が高くなる時期のカビ予防を行うと共に、安定した収穫が出来るよう液肥の調整と、肥料の葉面散布も行う。

栽培量については、今年度もサンプラザさんに出荷が出来なかったため、どんこハウスは全列ネネを作付けし、生産量の増加を予定しています。

来年度も、作業内容を細かく伝え、利用者さんが参加しやすい作業を提供していく。また、利用者さんの所在把握に気を配り、安全面への配慮にも努めていく。

## 2) 木工作业

担当：猪原

今年度より、余暇活動グループを拡充したことにより、木工作业としての活動は行っていない。しかし、埋蔵文化財センターとグローイングからの発注に関しては、職員が対応していくこととし、注文を受け入れていくようにした。また、良心市用のキーチェーンやマグネット商品に関しては、軽作業といった形でおこなっている。

埋蔵文化財センターからの火切り板の注文に関し、今年度は使用した火切り板を再利用（使用箇所を切り落とし、新たに穴あけを行う）する依頼があり対応し、納期内に収めることが出来ている。

グローイングからの注文に関しては、依頼はあったものの対応できる商品ではなかったためお断りをしている。

## (危機管理について)

コンセント管理や備品管理（鉄庫の施錠）を徹底するよう指示しているが、時折抜かっていることも観られた。日々の施錠確認を怠らないよう注意していく。

(展開)

今後もグローイングや、埋蔵文化財センターからの注文に関しては、発注内容を確認したうえで、現状の体制と照らし合わせ対応可能であれば受けていくこととする。

木工用の機械の使用をしない事が多いため、機械のメンテナンスや安全管理等を忘れないよう日々の確認をおこなう。

3) 食品加工

担当：井上

本年度の食品加工は、ブルーベリージャム・イチゴジャム・生イチゴジャム、ブルーベリーシロップ漬け、ドライトマトの製造を行った。

主に女性職員2名、利用者1名で取り組んだ。準備・製造・片づけに至る一連の流れに関して、担当利用者に過度な負担とならないよう配慮した。

加工品の製造は、ブルーベリージャム14回（前年度21回）、イチゴジャム11回（前年度14回）、生イチゴジャム2回（前年度2回）、シロップ漬け3回（前年度4回）、ドライトマト3回（前年度3回）であった。

加工食品製造は月2回を目処におこなう予定であったが、売り上げが上がりず昨年度よりも製造回数は少なくなった。

ドライトマト作業に関わる利用者の方は、継続して6名程度の方が作業に関わった。加工作業を行う際の、白衣、帽子、マスク、手袋の着用や手洗いと消毒等も自らおこなえており作業に慣れてきたと感じた。また包丁の扱いも上手になってきた。

(加工品製造個数)

品名	製造個数	前年比
ブルーベリージャム	440瓶	-215瓶
イチゴジャム	337瓶	-150瓶
生イチゴジャム	82瓶	-12瓶
シロップ漬け	24瓶	-8瓶
ドライトマト	3.68kg	1.12kg

(衛生管理)

ジャムの製造に担当する者の大腸菌検査は、職員は年3回(1.5.9)、利用者は年2回(1.7)実施した。他に冷蔵庫の室内清掃を定期的(5.11)に行うことや、ゴキブリ駆除剤の設置は年に2回(2.8)を目処に交換し、また定期的に業者へ入ってもらい点検を行った。また、排水溝への毎朝3分間の水流しや、パイプクリーナーを使用した清掃(年に4回(3.6.9.12))を行い排水溝の衛生管理に務めた。

今後も定められた規制を守り怪我や火災等が出ないように安全対策を強化し食品加工作業に取り組んでいく。

(展開)

各店舗の販売状況を観ながら、ロスが出ないように製造量を調整していく。

加工場の衛生管理を継続していく。ドライトマトの製造量を増やす。

新たに加工作業(ジャム作り)へ関われる利用者を検討する。

#### 4) ブルーベリー栽培

利用者職員とも他作業との兼務で栽培を展開した。

通常の栽培にはあまり手のかからない作物である為、必要時に1～2名の参加で栽培管理を行った。

[作業経過]

令和1年度ブルーベリー収穫記録 (Kg)

	ティフブルー	ハリス	ハルトウイン	鉢	落ちた実	総収量
6月	3.3	0.9	2.2	0.0	0.0	6.4
7月	76.4	73.9	82.0	3.7	25.3	261.3
8月	3.2	3.9	86.0	0.8	5.5	99.4
合計	82.9	78.7	170.2	4.5	30.8	367.1

天候不順と、樹木が弱ってきたことが連動し収穫量は前年比35%減となった。

[夏場対策]

今年度は屋根に微ビールを張らず、防鳥ネットを設置して栽培した。例年と比べ若干風通しが良くなったが、ハウス内の温度は40度になった。利用者、職員共に平均年齢も上がってきており、作業環境としては過酷なものになってきている。そのため熱中症対策としては、一日通しての屋外作業は設定せず、休憩時間を長く持ち、帽子の着用、水分補給と冷却タオルでのアイシングにて体温調節を行うようにした。

また作業利用者全員の参加ではなく、高齢者の方は午前本館待機を行い、午後から作業参加とした。

[作業状況]

一日の流れとしては午前に収穫を行い、午後はパック詰めと冷凍用の袋詰めを行った。

利用者さんの作業状況は、収穫の判断が難しい最初の時期については、餞別収穫のできる利用者さん数名が参加し、その他の方は落ちた実を拾ったり、草引きや掃除を担当した。後半時期になると、冷凍用にしかならない実も多くなるため全員が収穫に参加していません。今後の課題としては、餞別収穫のできる利用者さんの技術向上(スピードアップ)に向けて、個別指導を実施していく必要を感じた。

果実のパック詰めに関しては、出荷できる実を判断できる利用者に入ってもらい、その他の利用者は潰れている実の選別に取り組んでもらった。そうする事でなるべく多くの利用者さんがブルーベリー作業に関われるよう対応した。

#### 5) 販売活動

##### 【各販売店舗状況】

サニーマート

【六泉寺店：JA春野支所】				【瀬戸店：JA春野支所】			【土佐道路東店：細井商事】		
品名	販売数	昨販売数	前年比	販売数	昨販売数	前年比	販売数	昨販売数	前年比
生ブルーベリー	358 p	885 p	40.4%	169 p	355 p	47.6%	163 p	243 p	67%

ネネ	1575袋	300袋	525.0%	664袋	141袋	470.9%	451袋	23袋	1960.8%
ももたろう	550袋	531袋	103.5%	193袋	504袋	38.2%		207袋	
海たろう	74袋	30袋	246.6%	9袋	5袋	180.0%			
フラガール	683袋	173袋	394.7%	461袋	119袋	387.3%	231袋		
ドルチェ	98袋	127袋	77.1%	35袋	58袋	60.3%			
B Vジャム	114瓶	147瓶	77.5%	58瓶	72瓶	80.5%	26瓶	34瓶	76.4%
イチゴジャム	56瓶	108瓶	51.8%	44瓶	84瓶	52.3%	19瓶	29瓶	65.5%
生イチゴジャム	25瓶	26瓶	96.1%	14瓶	14瓶	100.0%		5瓶	
ドライトマト	40袋	39袋	102.5%	9袋	21袋	42.8%	32袋		
シロップ漬け	11瓶	9瓶	122.2%	8瓶	8瓶	100.0%			

【高岡店：細井商事】				【アクス南国店：細井商事】			【中万々店：細井商事】		
品名	販売数	昨販売数	前年比	販売数	昨販売数	前年比	販売数	昨販売数	前年比
B Vジャム	89瓶	86瓶	103.4%	12瓶	14瓶	85.7%	25瓶	13瓶	192.3%
イチゴジャム	89瓶	71瓶	125.3%	1瓶	23瓶	4.3%	8瓶	6瓶	133.3%
生イチゴジャム	10瓶	20瓶	50.0%	5瓶			4瓶	4瓶	100.0%
ドライトマト	4袋	4袋	100.0%	11袋	13袋	84.6%	7袋		
シロップ漬け	4瓶	5瓶	80.0%						

【あぞうの店：細井商事】				【販売総数】（サンシャイン含む）		
品名	販売数	昨販売数	前年比	総販売数	昨総販売数	前年比
生ブルーベリー				921	1,579	58.32%
ネネ				3,190	467	683.08%
ももたろう				829	1,373	60.37%
海たろう				93	35	265.71%
フラガール				1,388	292	475.34%
ドルチェ				146	185	78.91%
B Vジャム	31瓶	22瓶	140.9%	355	388	91.49%
イチゴジャム	20瓶	31瓶	64.5%	237	352	67.32%
生イチゴジャム	4瓶	5瓶	80.0%	62	74	83.78%
ドライトマト				103	77	133.76%
シロップ漬け		1瓶		23	22	104.54%
トマトジャム				0	1	

\*はるの市におけるトマトの生売りに関して、ネネの出荷数を大幅に増やしたことに比例して販売量が大幅に増加した。またフラガールに関しても昨年より出荷数を2～3倍に増やし、売れ行きも好調であった。

加工品の売れ行きに関しては、ドライトマトのみが昨年度の販売数を上回ったが、ジャムやシロップに関しては全て昨年よりも下回っている状況。特にイチゴジャムに関しては4割ほど下がった。

## サンシャインヴィアン

【サンシャインヴィアン店：太陽市】			
品名	販売数	昨販売数	前年比
生ブルーベリー	92 p	96 p	95.8%
ネネ	48袋		
ももたろう	19袋	131袋	14.5%

\*サンシャインへの出荷は、ヴィアン店のみトマトとブルーベリーの出荷を行ったが、昨年の約1/7しか出荷できておらず、売れ行きも悪かった。おそらく定期的に出荷できていない事が原因であると思われる。

生売りに関しては来年度も継続して出荷していくが、昨年からの課題でもある、出荷量を多くしていく為にはどうしていくべきかを検討する必要がある。

## サンプラザ

\*店舗からの出荷要請はあったが、生産量の関係で今年度は一度も出荷できなかった。販売先確保のためにも、生産量の増量に向けた取り組みをおこなう必要がある。

## 良心市

\*今年度より、利用者さんによる接客も実施した。現在は2名を接客担当として選出し、意識的にお客さんへ関わっていただくよう努めている最中である。

来客数も増え、売り上げも順調に増加してきた。地域交流の一環としても継続して取り組んでいく。

## 埋蔵文化財センター

\*今年度、埋蔵文化財センターからは、使用済みの火きり板の再利用という事で、使用した箇所を切り落とし、新たに切り込みと穴あけをおこなう注文が入り対応した。今後も年度末を目処に発注があると思われるため、対応していくよう準備を整えておく。

## 障害者作品展

\*今年度の障害者作品展には、1日のみの参加し、ミニトマトは販売終了時間の2時間前には売り切れた。木工商品はキーチェーンとマグネットのみの販売（木工作業縮小の為）としたため、例年に比べるとテーブルの上に並ぶ商品が寂しく感じた。その分布ボールを多く並べたものの、ほぼ売れていない状況であった。

## 【展開】

来年度も各担当者と協力し販促活動に取り組んでいく。トマト、ブルーベリーの生売り商品に関しては、今年度と同等数は確実に出荷できるよう担当者と調整に努める。また加工品の販売に関して、定期的な出荷を予定しているが、作業状況を観ながら出荷量の調整をおこなっていく。

現状では、食品関係の法律変更に対し、当商品は問題ない状況である。しかし情報収集や衛生管理の研修などには参加していき、対策が遅れることの無いよう努める。

## 6) いきいきクラブ

担当：猪原

利用者：5名、職員：1名

本年度より高齢化が進んできた利用者さんのニーズに対応できるよう、余暇、創作活動に重点を置いたグループを新設し、あじさい園のわくわくクラブ（利用者：7名、職員：1名）と共催で取組んだ。

### （活動状況）

活動はいきいきクラブと本館のわくわくクラブとの合同活動として取り組むことを基本とし、わくわくクラブが参加できない時は、いきいきクラブ単体で活動を行った。内容は、運動と創作を活動の軸とした。

午前中は主に運動支援を目的に、グラウンドや園外を歩いたり、第二の会議室でリズム体操を行い、午後は創作活動や園芸、カラオケなどを行い充実した時間を過ごせるよう努めた。また、園内清掃を工賃支給対象活動として実施した。

わくわくクラブと合同で余暇的活動に取り組むようになり、担当職員の数が増えたことで、利用者さんへの支援や配慮が行いやすくなったことが大きなメリットであった。利用者数も増えたが、以前より楽しく過ごせる時間が多くなったと感じ、今後もこの体制を継続していきたいと思っている。

### （展 開）

来年度は利用者編成もあり、現状よりも運動量を多くする事が可能であると思われるため、園外散歩や外出散歩の機会を設け、身体機能や体力の増進を目指した取り組みに努めたいと考えている。

創作では、スピリットアート展に向けた作品作りを中心に、作る工程にも利用者さんの得意な千切る事、楽しめる色付けや貼り付ける事を取り入れ、充実した活動となるよう努め、園芸では、作物を育てていくことを継続していきますが、夏場の時期には屋外での活動を避けるようにし、その際はプランターを用いて、なるべく屋内でも行える工夫を行っていききたい。

## II 作業収入（収支計算書等を参照）

トマト/BB	木工	食品加工	その他	総計
2,805,352円	173,072円	315,037円		3,293,461円

## III 作業工賃（作業に従事する者）

1) 時給計算での支給を基本とした。新しく作業に参加した方に対しては一定期間固定給で支給した。基本的に工賃支払は銀行振り込みとした。

支給工賃総額	967,377円
--------	----------

## IV 余暇活動・季節行事

木曜日の午後に余暇活動を設定し、利用者の気分転換を図った。

外出、買い物に関しては感染対策の為、制限を設ける事があった。

\*文化活動（刺繍、創作、習字、カメラを自由に選択）

\*スポーツ（フライングディスク、散歩等）

※高知県立障害者スポーツセンター主催の体力作り教室への参加。

\*買い物

\*外出

\*誕生祝い

活動種目は選択制とし、選択種目の中に作業活動も含めた。

1日外出が実施できるよう、救命救急等の支援技能の向上に努めた。

季節行事はあじさい園と合同で実施した。

作業終了後希望者を対象にフライングディスクの練習を行った。

#### 1) 季節行事

行事の内容によっては積極的に保護者や地域住民の方々の参加を促し、利用者と共に季節折々の行事を楽しんだ。

行 事	日時	備 考
5月行事 端午の節句	5/ 2(水)	本館、第二合同
高知県障害者スポーツ大会	6/ 2(日)	ボウリング/陸上競技
7月行事 七夕	7/ 5(金)	本館、第二合同
納涼祭	8/16(金)	あじさい・第二・こぼと・小鳩会他 約200名
9月行事 月見	9/ 6(金)	本館、第二合同
スポーツフェスティバル	10/18(金)	あじさい・第二・こぼと 約120名
第二あじさい園忘年会	12/13(金)	忘年会クッキング～ボウリング
クリスマス会	12/25(火)	感染症対策のため中止
冬期休業	12/27(金)	～R2.1/5(日)
新年会	1/10(金)	本館、第二合同
節分・もちつき	2/ 6(水)	感染症対策のため中止
3月行事 ひな祭り	3/ 6(木)	本館、第二合同

#### 2) 一日外出

5月17日（金）－高知県立池公園

11月8日（金）－みかん狩り（香我美町：土佐の高知のくだもの畑）

### 14 広報

#### 1) あじさい新聞

あじさい園、第二あじさい園、こぼと作業所の行事や活動の様子など楽しい雰囲気や情報が伝わるよう写真を取り入れて紹介し、利用者、保護者、職員が日々の出来事や情報を共有できるように、毎月のあじさい会で配布した。

#### 2) ホームページ

当法人についての概要、施設紹介、活動内容等を掲載し、職員の個性を活かしたブログで、利用者の日々の様子や園内の情報などを公開した。また、毎日の食事メニューを写真付きで掲載し保護者からも好評を得た。

### 15 送迎

高知駅前コース、天王ニュータウンコースの2コースを運行した。



16 苦情解決

本年度苦情受付件数 0件

17 管理責任

入園時間から退園時間までを当園の利用者に対する管理責任の時間帯とした。

いったん退園後、再来園する利用者に対しては保護者の了解を得て来る事と、17:00には退園する事を取り決めた。

18 その他

あじさい園の新型コロナウイルス感染対策として、令和2年3月2日より通所利用者はこぼと作業所にて活動を行った。

# 令和元年度 生活介護事業所こぼと作業所 事業報告

## 1 事業概要

生活介護事業を実施し、法人サービス理念、基本的運営理念、運営方針を基盤とした事業計画及び、利用者個々の特性やニーズに応じた個別支援計画を作成し、計画的且つ一貫した支援ができるように努めた。

営業日は原則月曜日から金曜日。営業時間は9:30～16:00(送迎時間を除く)として運営した。

## 2 法人サービス理念

### 1) 「できるだけ普通に、可能な限り特別に」をサービスの基本とします。

施設を地域の一単位と考え、一般社会と比較されるような特別な生活環境ではない、いわゆる「普通」感覚をもちながら、個別のニーズには可能な限り「特別」で手厚いサービス提供をすることを目指した。

### 2) 利用者に心地よい介助技術の習得に努め、心は常にアマチュアであろうとします。

職員は介護等の自主研修等をとおして介助、支援技術の習得に努めた。又、専門性を高めることによって、アマチュアであったときのような本来の福祉の精神が失われることのないよう職員教育を行った。

## 3 基本的運営理念

### 1) 家庭の代替機能、補完機能を第一義としない。

保護者と施設がそれぞれの役割を果たせるような関係づくりをし、利用者が家庭から遊離しないような取り組みを継続して行なった。

### 2) 幅広い福祉システム作りの核としての機能と目的を持つ。

法人の実施するサービスの有効活用を目指し、短期入所、相談支援事業と連携し、施設利用者支援に努めた。

### 3) 話し合える関係を保持する保護者たちが、施設と両輪となり「親の視点」で運営する。

利用者が何を望んでいるのかを把握するために、「親の視点」をとおして保護者と施設が連携を保ちながらの利用者サービスに努めた。

## 4 運営方針

### 1) ノーマライゼーションの原則

障害を疾病や発達障害としてではなく、個々の特徴として位置づけ、日常生活のうえで必要となる面は職員が支援を行なった。また、可能な限り個々の障害の質や程度で区分する事も行なわず全体の中で生活ができるように努めた。

### 2) 個別支援の原則

必要以外の集団サービスは行なわず、個々の特徴やニーズに応じた個別計画を作成し支援にあたった。

### 3) 家族・地域・施設連帯の原則

第3日曜日（8月は除く）に保護者会をもち保護者と施設の連携を深めた。また、納涼祭・スポーツフェスティバル・クリスマス会などを通じて地域交流を図った。

4) 利用者と職員は、指導「する・される」の関係から、作業環境を含んだより良い生活の受益と提供の原則

利用者はより良い環境を受益する権利があり、職員はより良い環境を提供する義務を持つという認識に立って活動をする事ができた。

5 令和元年度重点課題

1) 豊かな生活の創造

・利用者の個々のニーズが多様化する中、ティッシュ作業以外の活動内容を検討し、創作活動、運動支援、余暇活動等を計画し提供した。昨年度に続き、外部講師の協力を得て、生花やドライフラワーを使ったリースや季節の小物を作るフラワーアレンジメント教室を月1回実施した。

2) 職員（人材）の安定的確保

・ホームページ等 SNS を活用し、法人の情報発信を行った。

3) 職員の資質向上

・法人内研修にて、支援技術の基本をおさらいしたうえで、ユマニチュードを取り入れた支援技術の研修を実施した。  
・勤務上の調整がつく限り外部研修に積極的に参加した。  
・毎月救急救命、心肺蘇生法、応急処置の習得と災害時の対応訓練を行った。

4) 南海大地震対策の強化

・震災時の支援体制の確立と支援技能の向上を目指した防災訓練を実施すると共に、全体研修以外にも、毎月の職員会にて準備品・避難場所・訓練等の状況を確認し合った。またMCA無線を設置し、毎朝通信訓練を実施した。  
また今年度より新たに、南海トラフ地震臨時情報における支援体制についても検討を行い、訓練を実施し確認を行った。

5) 法人内事業所の連携強化

・活動や行事を通して、法人内事業所との連携強化を図った。

6) 地域との連携

・作業所前の花壇整備を通して、地域の方との交流を図った。

6 令和元年度職員研修

4月	支援技術の向上① 「排泄支援の基礎知識」	10月	支援技術の向上③ 「食事支援の基礎知識」
5月	支援技術の向上① 「排泄支援におけるユマニチュード」	11月	
6月	支援技術の向上② 「入浴支援の基礎知識」	12月	支援技術の向上③ 「食事支援におけるユマニチュード」
7月		1月	支援技術の向上④ 「口腔ケアの基礎知識」
8月	支援技術の向上② 「入浴支援におけるユマニチュード」	2月	支援技術の向上④ 「口腔ケアにおけるユマニチュード」
9月	あじさい園の防災について	3月	

※外部研修は令和1年度外部研修参加一覧参照

7 具体的運営

1) 生活支援

利用者個々の生活様式に応じた生活援助を目的とし、どうすれば最も快適な生活ができるかを常に模索し、利用者の自己実現を図れるよう支援した。

(1) 給食

食事内容		給食費用	
平均カロリー	651kcal	実延人数	2,027人
平均食数	4.5品	食 材 費	699,847円 (265円/1食あたり)
食 事 時 間	日課参照		

衛生管理費

検 査 ・ 点 検	結 果	費 用
検便	異常なし	
貯水槽清掃	良好	
浄化槽掃除	良好	74,250円
厨房内害虫予防 (大進)	良好	52,800円

器具什器費

食器・調理機器	35,212円
---------	---------

## 2) 健康管理

利用者の健康状況の把握と疾病の早期発見に努め、感染予防については過去の教訓を生かしながら対策に取り組んだ。

定期健康チェック	月2回	こばと作業所上田看護師
歯科検診	6/11	広田歯科
内科検診	7/19	横浜ニュータウン内科
健康診断	10/24	きんろう病院
インフルエンザ予防接種	11/7	横浜ニュータウン内科

## 3) 環境整備

施設内の美化と利用者身辺の整理整頓に努めた。

## 4) 防災計画

自主消防訓練：5/16→通報訓練、通報装置使用手順確認
南海地震対策訓練：8/13, 11/6, 12/3, 2/4→通報訓練, 避難所へ移動, 長期避難生活想定訓練
風水害訓練：5/16→避難訓練、保護者との通信訓練
南海地震対策委員会：毎月幹部会にて報告

- ・南海地震対策訓練では地震を想定し、新たに検討した避難所への移動訓練を行った。避難所での長期避難生活を想定し避難先との打ち合わせも実施した。
- ・南海トラフ臨時情報に係る外部研修、高知県知的障害者福祉協会の防災委員会主催の研修等にも参加。他施設、他業種との意見交換を通して防災知識を深めた。

## 8 日課

時間	活動内容
8:30	始業
8:30	送迎車出発、
9:30	体操、ミーティング
10:00	午前 日中活動（適宜休憩）
11:30	昼食・口腔ケア
13:00	休憩
13:30	午後 日中活動（適宜休憩）
15:15	活動終了・掃除
15:30	体操、ミーティング
16:00	送迎車出発
17:30	終業

9 職員構成

(令和2年3月31日現在)

職名 人数	管理者	サービス管理責任者	事務員(兼務)	調理員(兼務)	直接処遇職員				顧問医	合計
					係長	生活支援員	看護師(兼務)	支援員合計		
男	1				1	1		2	1(1)	4(1)
女		1	1	1		1	1	2		5
計	1	1	1	1	1	2	1	4	1(1)	9(1)

注( )は臨時職員再掲

10 運営資金

運営資金は、給付費でまかかった。

(収支計算書等を参照)

11 施設利用状況の推移(定員20名:基準開所日数269日,利用人数5,380名)

項目	延数	%	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
契約者数	104	43	8	9	8	8	8	9	9	9	9	9	9	9
利用者数	1998	37	165	166	162	172	157	161	185	172	164	157	151	186
開所日数	242	91	21	21	21	22	20	19	21	20	19	19	18	21

平均年齢:男性-37.7歳(3名) 女性-34.5歳(6名)

総計平均年齢:35.5歳(9名)(3月31日現在)

平均支援区分:5.3 基準人員配置人数:2.7人 済み

12 会議

職員会・ケース会・個別支援会議・サービス担当者会議・作業内容検討会・防災検討会・ユマニチュード検討会を随時実施した。

13 活動・行事について

社会自立に目標をおく作業とともに、個々人に適した自立や生き甲斐に主眼を置いた活動も提供した。行事、余暇活動については、体力作り教室、障害者スポーツ大会、中部地区施設交流会、ゆうあい四国高知大会への参加など積極的におこなった。

## I 活動別

### 1) ティッシュ作業

担当：小松

利用者は男性3名、女性6名、職員2～4名で実施した。

ティッシュの袋詰め、袋止め、箱詰め作業をそれぞれ工程ごとに役割分担し実施してきた。利用者の特性に合わせて役割を決め、作業場所も相性などを考慮し調整してきた。週1回を除き毎日午後を作業時間として取り組んできた。作業時間前から準備を始め、作業時間いっぱいまで集中して取り組まれていた。

少し作業が苦手な利用者さん5名は、30分間ティッシュ作業をおこない、その後は別の好きな活動に参加できるようにタイムスケジュールを組むことで、無理なく集中してどの利用者も作業に取り組むことができた。

請負先の和光製紙が事業縮小のためティッシュ作業を終了すると知らせを受け、利用者さんに意向を伺うとティッシュ作業をやりたいと強い希望があった。別の会社を紹介してもらい、ティッシュ作業は継続することとなった。3月から新しい請負先のティッシュの袋詰めを練習している。

4月	3種類	2508個	10月	4種類	2692個
5月	4種類	2740個	11月	3種類	1956個
6月	3種類	3439個	12月	3種類	2540個
7月	4種類	3580個	1月	1種類	2016個
8月	2種類	1900個	2月	2種類	1440個
9月	3種類	2040個	3月	1種類	2036個
合計					28,887個

### 【来年度】

今までとティッシュの種類がガラッと変わったため、作業の手順や工程、一週間の作業量の見直しを行いながら、利用者の要望に添えるよう展開を考えていきたい。

### 2) 運動支援

担当：玉川

#### 運動支援

担当：小松

主に午前中を活動時間とし、基本的に利用者、職員全員で運動支援に取り組んだ。

活動内容は散歩、体力作り教室、夏場はプールを実施。

散歩はそれぞれの体力やペースに合わせ、目的地を決めて長、中、短距離のグループに分かれて実施した。体調や怪我など散歩に出られない場合は、室内活動を提供した。散歩中、突発的な行動の見られる利用者さんには職員がマンツーマンで付き添った。

夏場の散歩は熱中症予防のため、30分程の短距離散歩にするか、室内でリズム体操を行うかその日ごとに判断し実施した。特にこの時期は水分補給をこまめに実施すると同時に、体調の変化にも気を配り、熱中症予防に努めた。

県立スポーツセンターが主催する体力作り教室（毎月2回金曜日実施）には、全利用者、職員が参加しエアロビ、ゲーム、ボウル遊びなど様々な身体を動かすプログラムに沿って楽しそうに身体を動かしていた。この教室では他施設との交流もあり、利用者さん同士が

仲良くなり一緒に楽しまれている。12月～3月は感染対策のため参加することはできなかった。

プール（7月～8月）も、全利用者、職員が参加。今年は天候不順が重なり予定のほとんどが中止となってしまったが、みなさんとともに楽しんでいた。

事故や怪我がないよう事前に職員間で打ち合わせや心肺蘇生の訓練を実施し、安全に楽しく活動が行えるよう取り組んできた。

#### 【来年度】

毎日の散歩をメインに運動する時間は確保しつつ、利用者さんが楽しく身体を動かすことができるよう体力作り教室、夏場のプールは継続して計画していく。その他体育館でのスポーツや、障害者スポーツ大会に参加するなど更に楽しい時間となるよう考えていく。

#### 3) 創作活動

担当：玉川

メンバーは男性1名、女性4名、職員1～2名体制でおこなった。

今年度は環境面に考慮し、2Fフロアを創作活動の場所とした。

少ない人数でおこなうことで、一人ひとりに支援が届くようになり、活動に集中して取り組まれていた。次第に個々人が意欲的に活動に参加するようになり、環境を整えたことで良い変化が見られた。

作品作りでは、季節ごとの壁面作りや行事等のポスター作り、スピリットアートやTシャツアート出展に向けての作品作りをおこなった。職員との会話を楽しみながら一緒に取り組み、利用者さん同士で会話を楽しみながら作る姿が多く見られた。周りが静かになってしまうと集中力が途切れてしまう場面もあったため、音楽を流すなど楽しく活動がおこなえるよう工夫して取り組んできた。

スピリットアートへの作品作りでは、各々が好きな色の折り紙や画用紙をちぎり、四季の風景を貼り絵にする作品作りをおこなった。残念ながら入選には至らなかったが、みなさん楽しそうに集中して取り組まれていた。

Tシャツアートへの作品作りでは、利用者さんが描いた絵を背景にして、全員の集合写真を貼り付けた作品を出展。この作品を見に全員での一日外出を計画している。

#### 【来年度】

一番のメインはスピリットアート出展に向けて、団体での作品出展と個人での作品出展を目指していく。個人作品は、個人の得意分野を生かした作品作りができるよう考えていく。季節ごとの壁面作りやポスター作りも継続するが、みんなが楽しめるよう工夫した内容にしていく。Tシャツアート出展にも継続して出展を考えている。その他の作品展も検討しつつ、個性豊かな作品作りができるよう、また作った作品をご家族にも喜んでもらえるよう計画していく。

#### 4) 園芸

担当：中山

利用者、職員全員参加を基本とし活動を展開した。

(道路花壇)

5月GW明けにパンジーを撤去。堆肥を入れ花植えの準備。5月末～6月にポチュラカ



の苗120本を花壇に植え、6月～10月に開花。10月に撤去。堆肥を入れ花植えの準備を行う。11月パンジーの苗120本を花壇に植えたが、時期が少し早かったようで痛んでしまう苗が多く、12月に追加でパンジーの苗40本を植える。11月～5月に開花。定期的に花柄摘みや草引き、水やりを皆で行い手入れを行いました。苗を植える工程は難しそうにしている利用者さんが多く居たので、プランターに土を入れる工程を担当してもらいなど、それぞれができることを役割として取り組んでいきました。

(2F中庭～1F植え込み)

いちょうの枝、ツタの刈り込みを皆で行い整備してきました。中庭ムスカリの手入れも並行して皆で行いました。

(あじさい園の畑)

6月にサツマイモ、11月にニンニク、3月にジャガイモを植えています。

皆でサツマイモとジャガイモの収穫を楽しみ、収穫したサツマイモやジャガイモを使いクッキングを楽しみました。サツマイモでスイートポテトを作り皆で美味しく頂きました。ジャガイモではフライドポテトを作りカレー味、青のり味、シンプルな塩味など色々と味を変えて楽しみ、皆で味わいました。

2月には大根の収穫を行い自宅へお土産に持ち帰り、スナックエンドウとエンドウ豆を植え付けました。利用者数名とエンドウの支柱をうまく立てることができています。

1週おきに畑での活動を行い、水やりや草引きなどを行いました。職員が少しアドバイスすることで、一つひとつ苗を植えることが出来る方、職員と一緒にすることで上手に植えたり草を引いたりとすることが出来る方、コンテナに皆が引いた草を集め片付けてくれる方など、それぞれ役割分担して実施してきました。イモ類の収穫前に職員が少し土を掘り返すことで、皆が見つけやすくなり芋を掘りだすたびに笑顔が見られ達成感を感じていたようでした。

#### 【来年度】

花壇は夏から秋にはポチュラカ、冬から春にはパンジー、作業所入り口の階段周辺にも花を植えたプランターを並べることで地域の方と会話のきっかけとなり、やる気につながるよう取り組んでいきます。

畑はその時期に植え付け、手入れ、収穫ができるよう年間を通して計画的に取り組んでいきます。夏場は屋外での作業になるので、熱中症予防。冬場も屋外での作業になるので防寒対策や排泄の配慮などを行い楽しい時間となるよう計画していきます。

#### 5) 良心市

担当：小松

今年度はトマトの仕入れがなく、良心市を開催することができなかった。

来年度もトマトの収穫量に応じて、良心市の開催を検討していきたい。

#### II 作業収入（収支計算書等を参照）

ティッシュ	良心市	総計
104,568円	800円	105,368円

#### III 作業工賃（作業に従事する者）

1) 時給計算での支給を基本とした。新しく作業に参加した方に対しては一定期間固

定給で支給した。基本的に工賃支払は銀行振り込みとした。

支給工賃総額	98,320円
--------	---------

#### IV 余暇活動・季節行事

##### 1) 余暇活動

担当：入交

毎週余暇時間を設け、買い物、外出散歩、フラワーアレンジメント等を実施してきた。買い物は利用者さんからのリクエストで木曜市に出掛けることが多かった。季節ごとの品物を家族に買って帰ると言って楽しそうに買い物をされ、持ち帰られていた。

月に1回程度のペースで春野運動公園への外出散歩を計画し実施してきた。園内の様々な場所を歩き、いつもと違った風景に気分転換できていたようだ。

フラワーアレンジメントは今年度もSOTOの加川さんを講師に招き、毎月1回実施してきた。今年は大きなアレンジメントを作って家に飾りたいとの希望に応じ、個々人が半年かけて大きなクリスマスリースを仕上げた。他の月も生花やドライフラワーを使って作品作りをおこなった。みなさんとても楽しみに心待ちされている余暇活動で、各々が1時間程度集中して作品作りに取り組まれている。活動の様子や作品をツイッターで発信しており、他の事業所からの問い合わせもあった。

気候の良い時期には一日外出や半日外出も企画し、利用者さんのリフレッシュに努めた。楽しい時間があることで、日々の生活の活力になっているようだ。

日時	外出先
4/2 (火)	半日外出：花見 (針木浄水場)
4/18 (木)	シネコン招待
4/22 (月)	一日外出：牧野植物園
5/17 (金)	一日外出：のいち動物公園
5/27 (月)	半日外出：ボウリング (ボウル葛島)
10/4 (金)	一日外出：牧野植物園
11/8 (金)	中部地区施設交流会 (春野運動公園)
11/11. 12 (月・火)	ゆうあい四国高知大会 (春野運動公園)
11/20 (水)	一日外出：牧野公園

##### 【来年度】

利用者さんが心待ちにしている企画は来年度も引き続き計画していく。

新たに季節行事については、作業所単独でクッキングを計画し、その季節に合わせたおやつを作って皆で食べるように考えている。

成人者が1名いるので、1月に成人式を予定している。

##### 2) 季節行事

季節行事は法人施設合同で実施した。

行事の内容によっては積極的に保護者や地域住民の方々の参加を促し、利用者と共に

に季節折々の行事を楽しんだ。

行 事	日時	備 考
5月行事 端午の節句	5/2 (水)	法人合同
高知県障害者スポーツ大会	6/2 (日)	ボウリング
7月行事 七夕	7/5 (金)	法人合同
納涼祭	8/16 (金)	法人・小鳩会他 約200名
9月行事 月見	9/6 (月)	法人合同
スポーツフェスティバル	10/18 (金)	法人合同 約120名
こばと作業所忘年会	12/1 (土)	こばと作業所→中止
クリスマス会	12/25 (火)	法人合同→中止
冬期休業	12/27(金)～R2.1/5(日)	
新年会	1/10 (金)	法人合同→こばと作業所で実施
節分・もちつき	2/6 (水)	法人合同→中止
3月行事 ひな祭り	3/6 (金)	法人合同→こばと作業所で実施

#### 14 実習生

高知市立高知特別支援学校 10/28～11/8 高等部1年生 男子1名

高知県立高知若草特別支援学校子鹿園分校 11/18～22 高等部1年生 男子1名

#### 15 送迎

百石町コース (2台で運行) を運行した。

#### 16 管理責任

入園時間から退園時間までを当園の利用者に対する管理責任の時間帯とした。

#### 17 その他

あじさい園の新型コロナウイルス感染対策として、令和2年3月2日より第二あじさい園、あじさい園の通所利用者に活動場所を提供した。

令和元年度  
(委託) 高知市障害者相談センター西部 事業報告書

1 事業総括

委託業務初年度ということで、当初は他の3支援センターに業務内容や取り組み方、その他のことについて教えてもらいながら業務を行う。困難事例への対応は基幹相談支援センターと連携を図りながら支援することで、本人・家族に寄り添う相談支援が展開できた。

業務内容としては、セルフプラン作成支援よりも一般相談に携わることのほうに多くの時間を費やしてきた傾向がある。特に一般相談については、福祉サービスに繋がらないケースも多く存在し（住宅探し・近所トラブル・触法・ペットの多頭飼育・生活困窮等々）解決できることと出来ないこともあった。

受給者証の更新時には、本人・家族と面談しセルフプラン作成支援を行うことで、一度も月をまたぐことなくスムーズに福祉サービスの利用に繋げることができたことは一定の評価と言える。しかし、新規に福祉サービスを利用したい人が増えてくると、アセスメントがしっかりできておらず高知市から確認を求められることもあった。また、ケースによっては特定相談支援事業所に介入してもらったほうが良いと思われる場合でも、多数のケースに携わっていることが理由で断られることもあった。

高齢となった親が子供の面倒を看ている（いわゆる80・50問題）家庭も存在し、現在までどこの機関や事業所とも関わったことがなく、将来に不安を抱えている方たちとどのように関わっていくか、また、触法障害者（刑務所・少年院を出所後）の生活の場や日中活動の場の提供、十分に整備されていない災害時支援についても今後の課題としてあげられる。

2、相談支援内容の内訳と延件数

区分	件数	区分	件数
1 福祉サービスの利用等に関する支援	1878	8 生活技術に関する支援	385
2 障害や病状の理解に関する支援	1563	9 就労に関する支援	678
3 健康・医療に関する支援	1175	10 社会参加・余暇活動に関する支援	294
4 不安の解消・情緒安定に関する支援	1251	11 権利擁護に関する支援（虐待相談含む）	29
5 保育・教育に関する支援	391	12 住居支援	29
6 家族関係・人間関係に関する支援	633	13 その他	338
7 家計・経済に関する支援	668	合計（延）	9321

3 研修会等への参加

相談支援初任者研修・相談支援現任者研・権利擁護研修・相談支援検討会  
高知市ブランチ会（毎月）

4 新型コロナウイルス感染症防止対策

高知県に初めての感染者が確認された時点から、高知市の指示により原則セルフプラン作成支援や相談業務については電話での調整とし、来所相談は中止することで3密を極力避ける感染防止対策を行った。

今後暫くは、業務形態を変えざるを得ない状況が継続することが予測される。できるだけ利用者支援に支障がない相談のあり方を構築していくことが課題となった。